

平成14年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	保健福祉部健康づくり課	直通電話	72-6124	事業コード	302020602	課内	4	作成日	平成15年8月8日
	担当者		藤原 信幸	担当課長			宮崎 雅年	担当部長	棚橋 文男

1 事業のアウトライン

1) 事業名	精神障害者社会復帰施設等交通費助成	開始年度	H10	終了年度	未定
		最近の事業内容見直し年度			
2) 総合開発計画での事業体系	施策コード 3020206 大項目 / 小項目 / 細項目 保健医療の充実/保健活動の充実/精神保健対策の充実				
3) 個別計画での位置付け	石狩市総合福祉計画(障害者福祉計画)				

2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	在宅精神障害回復者の社会復帰、社会参加の促進を図る。
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	精神障害回復者の地域協同作業所への通所を助長し、社会復帰、社会参加の促進を図る。
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	在宅精神障害回復者に、地域共同作業所へ通所するために要する交通費の一部を補助する。 対象者:市内に住所を有し、路線バス又は身体の障害上やむを得ない事由により自動車を利用して地域共同作業所へ通所する在宅精神障害回復者 助成額: 公共交通機関利用者は往復300円を超える場合は300円とし、300円以下の場合はその額、自動車利用の場合は200円(定額) 支給方法: 社会復帰施設の施設長を経由して支給。(助成を受けようとする者は施設長に申請、受領等の権限を委任)
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	特になし
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	他の類似事業; 精神障害者地域共同作業所運営補助事業(運営費の補助)
6) 事業の立案や実施などへの市民参加	なし
7) 評価中間公表への市民意見	なし

3 事業に投入した行政資源

項目	H12	H13	H14	H15 予算	H14 事業費の主な内訳	金額(千円)
1) 直接事業費(千円)	788	776	621	791	交通費補助金	621
2) その他の間接経費(千円)						
3) 従事正職員の人件費(千円)	329	332	330			
総事業費(1~3の合計;千円)	1,117	1,108	951			
総事業費中の一般財源(千円)	724	721	641		H14 主な特定財源の内訳	金額(千円)
市民一人当たり一般財源使用額(円)	13	13	11		道補助金	310
事務に従事した正職員のべ人数	0.04人	0.04人	0.04人			

4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法
通所者数(人)	目標値	11	12	12	石狩はまなす館の年平均通所数(人) 目標値 = 道補助申請時計画数(申請時による予想数) 実績値 = 一日当たりの平均通所人員
	実績値	11	11	9	
	達成率	100.0%	91.7%	75.0%	
年間開所日数(日)	目標値	230	230	230	目標値 = 年度当初計画数 実績値 = 当該年度実績数
	実績値	238	244	241	
	達成率	103.5%	106.1%	104.8%	
利用延べ人員(人)	目標値	2,335	2,741	2,610	目標値 = 年度当初計画数 実績値 = 当該年度実績数
	実績値	2,626	2,585	2,069	
	達成率	112.5%	94.3%	79.3%	

5 事業の成果

事業名：精神障害者社会復帰施設等交通費助成

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
年間延べ助成日数 (日)	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定	体調が不安定なケースもあるため、数値目標の設定は困難。	出席数累計表
	実績値	2,626	2,585	2,069	目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					
年間支給対象延人員 (人)	目標値	168	168	168	168	型作業所Bランクの定員14人×12ヶ月=168人を目標値とした。	交通費請求内訳書
	実績値	191	173	134	目標レベル		
	達成率	113.7%	103.0%	79.8%			
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					

6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	[課長評価]	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
[評価ポイント] 活動結果や活動効率、事業改善等の効果はどうだったか	通所者数が減少傾向にあるため、利用者を増やすための取り組みが必要である。				
2) 有効性・必要性	[課長評価]	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
[評価ポイント] その事業は事業目的の達成に効果があるか、また、市民(対象者)に必要なとされているか	年間延べ利用人員が減少傾向にあり、本事業がより効果をあげるためには、利用者増に向けた取り組みが必要である と考える。 なお、本事業は、精神障害者の経済的負担を軽減し、共同作業所への通所を助長する効果が期待でき、精神障害者の社会復帰、社会参加を図る上で必要な事業であると考えます。				
3) 市関与の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] その事業に市が関与する必要があるか、市がどこまで関与するのが適当か	一般企業への就労が難しい精神障害回復者への生活支援のための通所交通費助成は、精神障害回復者の福祉向上に必要であり、市の関与は極めて妥当である。				
4) 事業内容の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] 目指す成果を挙げるためには今の事業内容が適当か、受益と負担の関係に不公平はないか	精神障害者にとっては、地域共同作業所への通所自体が社会復帰、社会参加の一部であり、より多くの通所機会を確保するために交通費を助成するという現在の事業内容は極めて妥当である。				

7 平成14年度事業の総合評価

[評点の意味] A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	[課長評価]	C	[最終評価]	B (前年度)
	精神障害者の社会復帰、社会参加の促進に一定の効果が認められるが、より事業効果をあげるためには通所者増に向けた検討が必要である。		本事業は一部検討を要するが、一定の効果を上げており良好と考える。	

8 今後の方向性・課題

担当課長 評価	精神障害者の社会復帰、社会参加を促進する上で必要な事業であり、継続実施していく。
最終評価	課長評価を了承する。

9 平成16年度の方向性

* ; 担当課長 ; 最終評価	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持	*	
	縮小方向		
	統 合		
	休・廃止		
上についで の説明			